

第84回 世界の人とふれあいタイム



ドイツ連邦共和国

Bundesrepublik Deutschland

Ms. Alexandra Schwarz

日時:9月10日(日)

13:30~15:30

会場:八王子市学園都市センター

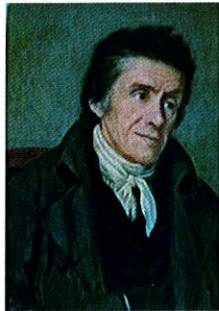
アレクサンドラ・シュワルツさん

は、2012年2月に続き、2回目のスピーチです。ヴュルツブルグ大学で地理と東洋史(古代史)を専攻して台湾や日本にも留学しました。その後中央大学で講師を

勤めています。3人のお子さんを育てながら、日本の子どものためにボランティア活動を精力的に続けています。

今回は「ドイツの子育てと教育」について語って、いただきました。

日本でも有名な教育者のペスタロッチ(Pestalozzi)、シュタイナー(Steiner)、モンテッソーリ(Montessori)の教育方針についてです。ペスタロッチは、『子供の力になることが大切で、両親が立派になって能力ある親をめざし子供に寄り添うことの重要性』



ペスタ ロッチ

を説き、シュタイナーは『三つの教育のルール(子供を尊敬して受け入れる・愛で育てる・自由な状態で送り出す)』を語り、またモンテッソーリは理科と医学が専門で、小児精神学者で医者として『子供の自然な能力』に気付きました。



モンテッソーリ ロッチ

「アビトゥーア」(Abitur)とはドイツの高校卒業・大学入学資格試験のことで、2001年学校の卒業証明書を持っていない生徒は47,000人で、州によってはかなりの格差がありますが、現在は約半分にまで減ってきています。一方移民歴

がある子供は、公立学校の3分の1を占めています。その移民歴がある子のAbitur率は現在約8%のみに留まっています。

1989年までの西ドイツでは保育園がなく、幼稚園は平均4歳からで、市立、教会立で25%の生徒がAbiturを受験していました。職業の選択は自由ですが、州によっては失業者がいました。一方同じ頃の東ドイツでは、国立の保育園があり、100%の生徒が職業に就くことができ、失業率ゼロでした。

統一後の目標は、出産率を上げ、教育レベルの高い

親を育てることで、良い就職チャンスを与えることで

す。
対策は資金を増やし子供手当の支給および保育園を作ることです。



教育への期待は、昔は大人が作った社会ルールに合わせる人間になることでした。

ここでは学校教育と家庭教育は両立しました。例えば子供の自由時間は大人がいない時に、長時間野外で自由に遊ぶことでした。

しかし現在は自立した人間になることが目標で、学校の教育には最も期待が寄せられていて、家庭教育は崩れ始めました。



小学校での授業風景

子供の自由時間については大人の管理下で行われ、室内での遊びがメインで短期間になってきたことも特徴です。つまり、昔の子供より今の子供の方が多く勉強していますが、その結果として運動していないメタボの子供が増え、偏食も多くなってきていて不器用な子供も多くなってきています。

学校の目標は、子供の安全、暴力のない学校、自立した考えを持つ子供を育てる、国際的な教育(数週間のホームステイ、長期留学等)で、就職に対応する教育を提供する(数週間のインターンシップ)ことです。

現代社会の変化に現実を向けると、コミュニティの中での子育ては存在しなくなり、昔の家族制度は崩れはじめてきていて結果として、学校には昔の家族の役目がおしつけられています。子供の個性も豊かになりまた、複雑になり、親、先生はそんな現実には疲れはてています。要因としては学校方針変更や、学校改革の繰り返いで更に状態を悪化させ、全国レベルでの統一Abitur試験がますます厳しくなっていることも課題のひとつです。(日本の教育の現状と同じです。)アンケート調査では、「講師の熱のこもった話・ユーモアに感心した」、「ドイツでの事情は全般的に我が国より進んでいると思ったが、意外な一面を知った」、「好奇心を忘れずに体験を大事にする事の大切さを感じた」など、大変好評でした。

(世界の人とふれあいタイム委員長 生山 龍哉)